



行政区のあり方について

問 行政区の現状について。

総務課長 全国では、昭和40年代に現在の体制が確立し、本町も現在の組合が組織されたものと思われます。加入率は、令和6年では80%以上の行政区が5行政区、60%以下の行政区が5行政区でばらつきがあります。町としては、町民の意見などを踏まえ状況を分析し、全国の好事例も参考にしながら、将来にわたり持続可能なより良い行政区のあり方を検討していきます。

問 現在の行政区について、どのように考えているか。

総務課長 行政事務の推進と地域コミュニティの役割を担っています。町では、行政区に対して広報紙の配布や町への意見・要望のとりまとめ等をお願いしています。また、行政組合を脱退する理由は、高齢、体調不良、役員の業務負担などがあり、背景に

は、少子高齢化や住民の価値観の多様化、地域コミュニティの希薄化が影響していると思われます。

行政区別加入状況

令和6年4月1日現在

行政区	世帯数	組合加入戸数	組合加入率
元 栗 橋	363	205	56.5%
川 妻	153	121	79.1%
小 手 指	179	114	63.7%
堀 之 内	192	54	28.1%
新 幸 谷	68	51	75.0%
小 福 田	191	109	57.1%
大 福 田	116	104	89.7%
山 王 山	76	70	92.1%
山 王	57	54	94.7%
江 川	169	102	60.4%
幸 主	121	102	84.3%
冬 木	104	87	83.7%
両 新 田	28	21	75.0%
土 与 部	175	105	60.0%
原 宿 台	1,098	266	24.2%
合 計	3,090	1,565	50.6%

※上記の世帯数は、世帯分離や会社寮入居者等を除く。

問 今後、行政区をどのように「より良い姿の検討」をしていくのか。

総務課長 今年度から町と行政区の役員等と検証を進めるため、行政区に出向きヒアリングを実施し、町からの依頼事項の整理など行政事務の円滑化・効率化に係る検証を行います。令和8年度には持続可能な行政区のあるべき姿を構築し、令和9年度以降に実証していきます。



多くの人で賑わう元栗橋の夏祭り（八坂神社祭礼）

